

第33期第10回常任理事会議事録

日時：2005年5月16日（月）17時05分～18時35分

会場：東京大学山上会館201・202会議室

出席者：廣田，木田，近藤，住，多田，坪田，新野，
板東，藤部，三上，以上10名。

その他の出席者：島村（事務局）

議事

1. 第33期第9回常任理事会議事録の確認
2. 第33期第1回評議員会議事録の確認
3. 各委員会からの報告

庶務…後援名義等使用依頼受け付け

名称：平成17年度気候講演会

- 1) 主催：気象庁，沖縄県，（財）日本気象協会
- 2) 期日：2005年7月21日（木）
- 3) 場所：沖縄県庁講堂（那覇市泉崎1-2-2）
- 4) 名義：後援

名称：第3回ジャパン・サイエンス&エンジニアリングチャレンジ（JSEC2005）
～高校生“科学技術”チャレンジ

- 1) 主催：朝日新聞社
- 2) 期日：2005年6月～2006年7月
- 3) 名義：後援

- ・気象庁長官，同企画課長に富士山観測に対する要望書を提出した。
- ・堀内賞の募集に対し3名の推薦があった。
- ・大学評価・学位授与機構の認証評価専門委員の候補者として，岩崎俊樹会員と高藪縁会員の資料を送付した。
- ・通常会員819名へ総会参加票を発送した。
- ・国際交流補助として，京都大学の高島久洋会員（中国，北京へ）と風岡亮会員（オランダ，ユトレヒトへ），北海道大学の古閑俊也会員（中国，北京へ）の3名に対して旅費補助の内定を通知した。
- ・2006年度春季大会運営の依頼書を気象研究所に発送した。

会計…2005年4月分の収支報告。

天気…Vol. 52 No. 5（2005年5月号）の掲載記事と
Vol. 52 No. 6（2005年6月号）掲載予定記事の報告。

・雑誌“気象”に掲載されていた毎年の大雨や台風のまとめの記事を，これから“天気”5月号に毎年掲載する。

気象集誌…第83巻第4号の検討状況の報告。

気象研究ノート…第208号を6月中旬に発行予定。第209号はまもなく印刷が始まる。

SOLA 編集…これまでの総投稿数は45編。IPCC 関連の投稿数が多い。

・編集作業に予想以上に大変な部分があり，委員構成や作業の見直しを考えている。

教育と普及…夏季大学の準備を進めている。

・地球惑星科学合同大会（5月22日（日）～26日（木）幕張メッセ（千葉県千葉市））において津田理事のGPSの話題をはじめ，気象や地学教育関連の講演が多く行われる。

各賞…猿橋賞の推薦者は不採択となった。

国際学術…日本・中国・韓国合同シンポジウムは130人余が参加して行われた。当初は3年毎の開催予定であったが，盛況のため来年秋に韓国で第2回目を開催することとなった。

電子情報…学会ホームページの学会賞と藤原賞の受賞者を更新した。また，理事一覧を4月1日時点の内容に更新した。

用語検討…ホームページに公開する内容の検討が進んでいる。

地球環境…2005年春季大会に独自のシンポジウムを開催する予定であったが，結局気象学会との共催となった。来年の春季大会（筑波）では独自に開催したい。

125周年…理事会に先立ち第1回目の打ち合わせを行った。議論の内容をまとめた上で，関連する委員会に検討をお願いする。

4. 会員の加入・退会

新入会員39，退会7を承認。5月13日現在，会員数4,208名。通常会員数は現在863名。

5. 2005年度総会について

総会に提出する議案の内容及び通常会員からの総会参加票の集約状況を確認した。参加票の回収率が77%であったことが報告された。

6. その他

「風に関するシンポジウム」幹事である三上理事が

ら、次回のシンポジウムを2006年1月24日(火)に気象庁講堂で開く案が説明された。他の会合と重な

らないかを検討した上で最終的な日程を決定することとした。

第33期第4回理事会議事録

日時：2005年5月16日(月)18時40分～20時10分

会場：東京大学山上会館201・202会議室

出席者：廣田、伊藤、木田、近藤、里村、住、多田、津田、坪田、中澤、中村(健)、新野、板東、藤部、藤村、宮原、山崎、以上17名。

書面参加：古川、磯部、岩崎、田中、以上4名

その他の出席者：宇平、中村(誠)、松村、湯田(推薦理事候補者)、中村(尚)(東京大学(大会事務局長))、小池、松本(東京大学(大会実行委員))、島村(事務局)

議事

1. 2005年度総会について

(1) 総会資料の最終確認

総会に提出する議案を最終確認した。議案4(細則の一部改定)については、新しい機関誌の発刊等にあたり、編集の在り方が変わってきていることが説明された。また、議案6(事業計画(案))に関して、既に実行済みの行事があることや大会開催の在り方を見直していること等について、理事長挨拶で触れることとした。

(2) 総会参加票の最終確認

通常会員に発送した総会参加票の回収率が8割に満たなかったことが報告された。これに対し、通常会員の意識を高めるよう、理事長から要請があった。

(3) 総会進行の確認

標記について確認した。また、会場入口での会員種別の確認方法について、通常会員で参加票を提出した人と提出していない人を区別して数える等の説明があった。

2. 2005年度秋季大会、2006年度春季大会の準備状況について

関西地区の藤村理事から、2005年度秋季大会について、大阪管区気象台の小佐野慎悟台長を大会委員長とし、神戸大学の山中大学教授を大会実行委員長、

藤村理事を同副委員長とする体制で準備を進めていることが報告された。今後の実行委員会でシンポジウムの話題等を決める。なお、大学の独立行政法人化により会場使用経費が必要となり、大会予算が本部からの交付金を超過する恐れのあることが報告された。

2006年度春季大会については、気象研究所において準備が順調に進んでいることが、藤部理事から報告された。

3. 2007年度春季大会の担当機関について

関東地区連絡会において、東京大学気候システム研究センターの担当で了承されたことが、藤部理事から報告された。

4. その他

(1) 日本地球惑星科学連合設立準備会の報告

藤部理事から、5月14日(土)に行われた標記準備会第5回会合の内容が報告された。津田理事が関わっている大会運営委員会の情勢や、アジア-大洋州地球物理学会(AOGS)(7月、シンガポール)に加盟学会の欧文機関誌を展示する計画があること等について検討した。

(2) 地方支部理事からの意見

中部支部から、2006年度秋季大会の準備を進めるにあたり会場の確保に苦労していることが報告され、使用料の高い会場を予約せざるを得ない状況になった場合の経費超過に配慮して欲しいとの要望があった。これに対し廣田理事長から、個別の事情については適切に判断するので、状況を逐次報告して欲しい旨が述べられた。

平成17年6月13日

社団法人日本気象学会

議長 多田英夫

署名人 板東恭子

署名人 木田秀次